

## ごあいさつ

日本マーチングバンド協会 中国支部  
理事長 香島 譲

これまでと違う緊張感に包まれた2020年度のスタートにあたり、ご挨拶申し上げます。  
2019年末より世界中を不安に陥れた新型コロナウイルスの猛威は、2020年に入ってさらに感染地域を拡大し、私たちの生活様式を一変させるまでになりました。この文章を書いている本日も多くの感染者を出し続けており、未だにこれまで通りの日常が戻ってくる様子は見出せません。

中国支部の理事会・総会についても、一同に会することはなく、Web会議・書面審議により決議するというこれまでに例のない方法で行わざるを得ませんでした。また、最大の行事である中国大会は、苦渋の決断ではありますが、ビデオ審査会という形で行うことにいたしました。

たくさんの観衆の前で演奏・演技することを夢見て努力を重ね、厳しい練習にも耐えてきた皆さんの心情を思うと、胸が痛みます。しかし、嘆いてばかりはいられません。私たちはマーチングバンドの活動をここで止めてしまうわけにはいきません。

今、私たちには「新しい生活様式」が求められています。これまで、当たり前のように考えて、行ってきたことを根本的に見つめ直すことを求められています。昨年からはじめた働きかた改革・部活動の指針もさることながら、長期に渡る休業・休校などで、部活動や日頃の練習は大きく制限されることとなっていますが、その現実にはしっかりと向き合わなければならないと思います。

マーチングバンドの活動によって、私たちが目指してきたことは何だったのでしょうか。他人から見れば些細なことでも、指導者やプレーヤーにとって大切な瞬間瞬間があったはずですが。私たちの日頃の活動は、アリーナで観衆から大きな拍手喝采を浴びるためということだけが目的だったのではなく、また、大会に出場することだけが目標だったのではないと思います。毎日の練習で仲間と共に技を磨き続けてきたことで、自分が成長できた。それこそが活動の本質だったのではないのでしょうか。

今回、私たちが経験する全てのことが、将来のマーチングバンドの活動の礎になることは間違いありません。現在活動しているメンバーと指導者の皆様には、今一度マーチングに取り組む意味を見つめ直し、未来につながる活動を、そして新たな魅力に溢れる活動を展開して下さるようお願いいたします。

※東北マーチングバンド・バトントワーリング連盟 会長 三條正弘様の文章を一部転用させていただきました。